



#WHEN WE SHINE

Sangam's Community Programme "Tare"

No.1

神奈川県第8団 大堀すみれ

Sangam's Community Programme "Tare"とは

参加にいたるまで

私は現在、インド、プネーの Sangam World Centre で、Community Programme "Tare"に参加しています。"Tare"とは、ヒンディー語で星という意味で、Sangam が展開している独自のボランティアプログラムです。このプログラムは3ヶ月の長期と、1ヶ月の短期があり、私は長期の方に参加しています。参加者は週に4日、Sangam のコミュニティパートナーへ赴き働きます。その他の日は Sangam 内で、インドの文化を学ぶレクチャーや、WAGGGS の指針に沿ったセッションを受けます。

2010年にイギリス、ロンドンの Pax Lodge に宿泊した際、いつかワールドセンターにボランティアとして滞在したいと思うようになりました。どのワールドセンターのボランティアプログラムも期間が長いめなかなか機会がなかったのですが、Sangam のこのプログラムは1年に Long-term を2回、Short-term を3回募集しているため、自分のスケジュールに合う期間を見つけることが出来ました。またこのプログラムは、18歳以上なら誰でも参加することが出来るので、より多くの人に参加できる機会があります。

以前から、Sangam はユニークで興味深いプログラムを展開していると聞いていたのですが、既に私も Sangam は近隣地域との繋がりが強く、厚い信頼を受けていることを実感しています。

今号から数回にわたり、私の Tare としての体験を綴りたいと思います。

プログラム概要

・プログラム名:

Sangam's Community Programme "Tare"

・期間: 2018年1月7日~3月24日
(Long-term)

・場所: Sangam World Centre (インド)

・参加者: 私を含む Long-term Tare 3人(他2人はイギリス出身)、

Short-term Tare 2人(オーストラリア、スウェーデン出身)

※Short-term Tare は1ヶ月のプログラムのため、この2人の滞在期間は1月中旬~2月中旬です。

Tare Members



左下から時計回りに、

私, Elizabeth(UK), Josie(UK): Long-term,
Rebecka(Sweden), Sylvia(Australia): Short-term

スケジュール

1月7~8日: Opening Ceremony, Orientation
1月9~18日: イベント"Reach For The Stars"
1月19日~3月23日: コミュニティパートナーで働く
3月24日: Debriefing, Closing Ceremony

一週間の流れ

月火木金: 9:30~15:30までコミュニティパートナーにてアクティビティを展開します

水: ヒンディー語のレッスン1時間(毎週)、他のコミュニティパートナーを訪れたり、Sangam 内でセッションを受ける等日によって異なります

土日: オフ(Sangam 内でイベントが開催されている時は参加することが出来ます)

イベント"Reach For The Stars"

私を含む Long-term Tare 参加者 3 名は、"Reach For the Stars" という Sangam 独自のイベントに参加しました。10 日間のこのイベントでは、Sangam のコミュニティパートナー、インドの文化、WAGGGS の 3 つのフィールドについて学ぶセッションがありました。Sangam や、コミュニティパートナーについて学んだほか、インドでの生活の仕方や文化についても理解を深められたので、Tare としてコミュニティパートナーの下で活動を始める前に最適なイベントだったと思います。

WAGGGS のセッションでは "Be The Change", "Free Being Me", "Stop The Violence", Sustainable Development Goals について学びました。難しい内容ですが、ゲーム等を交えて理解をやすくする工夫がされており、今後自団で展開する際に参考にしたいレクチャーで、非常に勉強になりました。



"Be The Change" では、3 つのコミュニティパートナーと活動しました。その組織の目標を考慮しながらどのようなプログラムを提供するかを企画し、実際に行い、振り返りました。そのうちの一つの組織は、女性の自立を促進しようとしている組織だったので、女性たちが簡単に作って商品として売ることが可能なクラフトを教えました。

イベント 1 日目の夜に行われた Welcome Ceremony はインドの伝統的なスタイルを取り入れており、とても心がこもった式で印象深かったです。



Tare としてコミュニティパートナーで働く

Tara Mobile Creche

Sangam は近隣の多数の施設とコミュニティパートナーとして連携しています。Tare 参加者はそれぞれ別の施設に赴き、それぞれが準備したアクティビティを展開します。配属先は申込時に書いた興味のあるフィールドに基づいて決まります。

私の配属先は Tara Mobile Creche という施設で、両親が工事現場で働いている子供たちが集う施設です。工事の終了と共に、両親の職場が新しい工事現場へ移動となるため、同じ学校で教育を受けにくく、退学してしまうこと、また、女の子は、両親が働いている間に兄弟の面倒を見ることを任せられ、学校に行くことが出来ないという背景があります。そのような子供たちに教育、食事、医療を提供しており、建物は工事終了と共に新しい工事現場の一角へと移動します。



工事現場の一角にある Tara Mobile Creche

ここへは、0 歳から 12 歳の約 180 人の子供たちが毎日通っています。私がアクティビティを受け持つことになったクラスは 6 歳以上の子供たちのクラスです。学校に通っている子供たちと、通っていない子供たちがいて、午前中に学校に行っている子供は、午後施設に来て、午後学校に行っている子供は、午前中に施設にいます。また、学校に行っていない子供は一日施設にいます。



工事終了後、この施設も新しい工事現場へと移動するため、簡単な作りの小さな建物です



午前と午後でほとんどの子供たちが入れ替わるのですが、一度に教室にいる子供たちは 25 人ほどです。何事にも好奇心旺盛な子供たちなので、すぐに親しくなれました。

ほとんどの子供たちはマラティー語 (マハラシュトラ州で話される言語) を話すため、コミュニケーションを図るのが難しいときもありますが、日本語や英語のソング、ゲームやクラフトを教えています。

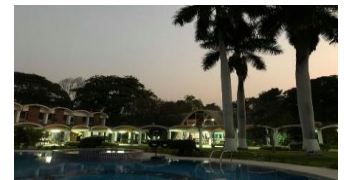
はじめてのインド、はじめての Sangam

私はムンバイ国際空港に到着し、そこから Sangam までは車で 4 時間かかりました。道中で見た光景は、まるで昔にタイムスリップしたような感覚を覚えました。どこを見ても人が多く、交通量もとても多いのです。



Sangam の前の通り Alandi Road

一方、Sangam 内は木々が生き茂り、とても静かです。Sangam では、常にガールスカウト・ガールガイド向けにイベントを開催しているほか、コミュニティパートナーと連携したプログラムも展開しており、それに加え、個人の宿泊客も訪れるので、新たな出会いが沢山あります。



ブネーは観光客があまりいないので、私たちが外を歩いていると、地域の人々は Sangam の住人と認識してくれ、とても親切にしてくれます。長年、Sangam が地域社会と良い関係を築いてきた様子が伺えます。